

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◆教育目標「つながり・チャレンジする 子どもたち・学校」を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。 ◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。 ◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、「わかる」「できる」力を伸ばす教育を実践する学校を目指す。	<学校経営> コロナ禍明けの状況において、各部署が連携をし、教育目標に向かいスモールマネジメントで運営することができた。 新サーバーを円滑に運用し、校内データを有効活用することができた。アプリ導入によりプリント配信が可能となった。 緊急対応訓練の取り組み方や回数について、必要な回数を適切な人数で実施できるように調整が必要。 ヒヤリハット事象が起こった時には、迅速に関係者が集まり情報共有することができた。 年2回の実施となったが、学校運営に関わる具体的な協議ができた。 アプリ導入により、効果的な保護者への情報発信が可能となり、ホームページへの関心も高まった。 相談ケースの約半数が継続相談となり、継続性を重視した相談支援ができた。 地域のニーズに合わせて、研修会の講師派遣に応じた。 <教育活動> 作業学習をテーマに研究を進め、12年間のつながりを考える機会とすることができた。 学校DX研修の会場校としてICT利活用に関わる授業公開し、実践の情報発信をすることができた。 京都八幡高等学校との直接交流の機会が戻り、授業のニーズに合わせた連携先の新規開拓もできた。 高等部では学年別に焦点を当てた進路説明会を実施することができた。 定期的に進路ニュースを発行し、福祉制度や卒業生の姿についても情報発信することができた。	3つの安心を目指す学校作りを行う。 *児童・生徒が安心して学ぶことができる学校 *保護者・地域が安心して託すことができる学校 *教職員が安心して働くことができる学校 ○学校経営 1安心・安全の徹底 ・日常的な危機管理と安心・安全に対する意識の向上 ・防災会議を中心とした、非常事態への対応の検討 ・法令に基づいた医療的ケアの実施と徹底した感染症拡大の防止の徹底 2コンプライアンス意識の向上と徹底 ・教育公務員、社会人としての服務に対する意識の徹底 ・人権意識の高揚とあらゆる教育活動とおとした人権教育の推進 ・学校への信頼を高めるためのチーム力の向上 3働きやすい環境作りの充実 ・京都府「働き方実行計画」に基づいた業務改善の推進 ・自分を大切にすることと他者の気持ちを大切にすることの職場環境の形成 ・「来たときよりも美しく」を心がけた環境整備 ○教育活動 1学習指導要領の趣旨を踏まえた日常的な授業改善 ・児童・生徒の多様性と可能性を意識した授業の推進 ・卒業後を見通した、連続性のある教育課程作り ・情報図書の充実を図り、創造性を育む授業の推進 2専門性の向上 ・自校の課題に焦点を当てた研修会の実施 ・児童・生徒の変化に気がつく、チーム力の向上 ・「遊びの指導・作業学習のねらい表」を基に実施した作業学習の検証 3保護者・地域社会との連携の推進 ・保護者・地域の思いに寄り添う「地域とともにある学校」作りの推進 ・学校運営協議会を活用し、つながりを意識した地域社会との連携の推進 ・HPや地域資源を活かした、タイムリーな学校情報の提供

評価 領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	教育目標の具現化・具体化及び組織的な学校経営の推進	各学部、各校務による学校経営方針を具現化するマネジメントの実施	B	B	・各学部、各分掌において役割や年間の流れを確認し、学校経営方針の具現化を目指したマネジメントが行えた。 ・研修会は、各担当で内容を工夫し設定はできたが、参加率が低かった。研修機会の確保や設定の工夫が必要。 ・時間外勤務時間については、9割以上が45時間以内と減少傾向となった。	
		人が育つ計画的な研修会等の実施	B			
		それぞれの勤務時間を意識した業務の見直しと働き方の検討	B			
	安心・安全を重視した取組の推進	防災会議を中心とした、非常事態への対応の検討	B	B	・防災会議を設定し、保安体制や災害時の対応について見直すことができた。 ・京都八幡高等学校南キャンパスと合同避難訓練を実施した。 ・ヒヤリハット事象が起こった時には、すぐに情報共有することができた。 ・生徒指導事象に関わって、各関係機関と連携しながら、迅速に対応することができた。	
		様々な状況に対応できる緊急時対応訓練の取組方の検討と実施	B			
		校内ヒヤリハット事象の迅速な報告、共有と教訓化（医療的ケアに限らない）	B			
		いじめ、不登校対応を意識し、児童生徒の一人一人の人権を大切にす取組の推進	B			
	地域社会に開かれた学校経営の推進	学校運営協議会の円滑な運営及び学校運営等への評価の活用	B	B	・学校運営協議会において、各委員の方から学校運営に関わる意見をいただいた。 ・HPをリニューアルし、発信内容や回数を工夫したことで、閲覧数が20%増えた。 ・地域支援センターやわたをとおして、各市町教育委員会等に就学に関わる情報発信を行った。	
		ホームページや配信等の活用による計画的かつタイムリーな教育内容の発信	A			
		各関係機関との連携の強化（就学前施設との連携）	B			
「地域支援センターやわた」の機能を生かした地域における特別支援教育の推進	各地域や学校のニーズに対する機能的なアセスメント及び相談支援、研修支援の実施	B	B	・総合教育センタープロジェクト研究において、自立活動部と連携し、協同でアセスメントを実施し、中学校への研究協力を行った。 ・校内のコーディネーターを活用し、ケース相談を行った。		
	校内の人材・実践の活用、発信	B				
教育課程・学習指導	プロジェクト会議による全校研究の牽引	「遊びの指導・作業学習」を基に実施した作業学習の検証	B	B	B	・昨年度に作成したねらい表をもとにした授業実践を研究し、学部間の繋がりを全校で確認することができた。
	ICTを効果的に活用した実践の推進	ICTを活用した積極的な授業改善	B	B		・学部の実態に合わせて、ICT利活用研修を実施した。 ・図書室の環境整備として、寄贈等を活用し蔵書数が増えた。
		図書環境の整備	B			・Teamsでの発信を各学部で積極的にを行い、京都八幡高等学校とも計画的な打ち合わせのもとに取組を進めることができた。合同研修会等についても検討したい。
	新たな交流及び共同学習の創造	交流教育部と各学部の連携による組織的、計画的な取組の実施	B	B		・個々のニーズの把握や実態に応じた実習先を確保し、進路実現に努めた。中学部段階から職場見学等を実施し、保護者
	希望進路の実現に向けた進路指導の充実	各学部のつながりを意識した組織的かつ計画的な進路指導による希望進路の実現	A	B		

		進路実現に向けた保護者への情報提供や研修会における内容の 精選と方法の検討	B		からの好評を得た。 ・学部に合わせて進路説明会の内容を設定し、高等部では学 年別に実施した。学校 HP で進路だよりを公開し、情報発信し た。
--	--	--	---	--	--

学校関係者評価委員会による評価	- 希望進路の実現に向けた進路指導の充実について、中学部段階から職場見学を実施するなど各学部のつながりを意識した取組や、進路説明会の内容を工夫するなど保護者への情報提供や研修会の効果的な取組が進められた。 - 教育目標の具現化のために、教職員の専門性向上のための研修会の仕組みや設定についてさらなる工夫を進めていただきたい。 - 今後とも高等学校と特別支援学校が併設されていることの意義を踏まえ、共生社会のモデルとなる教育活動の充実を継続していただきたい。また、地域社会との連携を進め「地域とともにある学校」作りを推進していただきたい。
次年度に向けた改善の方向性	- 障害特性等に関わる専門性を高め、共通認識を持てるように全員参加型の研修会の設定を行う。 - 学びの連続性を重視し、12 年間のつながりのある教育を目指すとともに、社会に開かれた教育課程の見直し及び推進を図る。 - 安心安全な学校であるための人権意識の向上や防災教育の充実を図る。 - 関係機関と連携し、引き続き図書環境の整備を図る。